

# ジオAI研究会(第3回)事務局資料

---

令和8年4月20日

## 1. 第1回、第2回研究会の振り返り

- 第1回、第2回研究会から得られた示唆(=方向性)

## 2. 本日も議論いただきたい点

(1) 取組の方向性の検討について

主に論点2:ジオAIのモデル、論点3-1:データ整備、

論点3-2:データ連携・流通、論点4-2:進め方など(ガバナンス)について

(2) 中間整理素案について

# 1. 第1回、第2回研究会の振り返り

---

## 論点1. 概念整理・目指す姿

### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- 「ジオAI」をどのように概念整理していくべきか。
- 「ジオAI」の現状をどう分類・整理し、目指す姿としてどのようなものが想定されるか。
- 「ジオAI」の実現により、我が国経済・社会には、どの分野でどんな未来を期待することができるか。(ウェルビーイング、イノベーション、レジリエンス) 等

### <第1回研究会で得られた主な示唆>

- ・ ジオAIの推進にあたっては、全体としての計画が重要となる。災害やインフラ管理など国の根幹に関わる話であり、関係者がバラバラに取り組むのではなく、協調と競争のフレームを切り分け、みんなでレッスンをためながら進めていく必要がある。
- ・ 現在はAI for GISが先行しており、あわせて今後はGIS for AIの実現が期待される。
- ・ ジオAI(地理空間情報×AI)の価値は、意思決定の速度や選択肢、再現性(属人性の排除)などにあり、「意思決定プロセスの質的転換」にある。
- ・ ジオAIはホワイトカラーの職を代替・補完・補強するが、誰のどんな意思決定やどれだけのコストが代替されるのか。マネタイズの視点を考慮することで、全体のシステムが見えてくる。
- ・ フィジカルAIに対する貢献も期待される。地理空間情報が世界的にも充実している日本では、ものづくりの現場と合わせて、ジオAIは日本が世界をリードできる分野である。

### <第2回研究会で得られた主な示唆>

- ・ ジオAIについて、多様な分野でユースケースが出始めている一方で、産学官が共通して取り組むべき領域(集合的に行うべき領域)をどこに設定するかを整理する必要がある。
- ・ 地理空間情報×AIにより、効率化や人手不足解消、社会課題解決につながるのと共通認識は得られているが、地理空間情報AI単独で閉じるのではなく、物流、環境等の他分野AIとも連携する姿が求められる。
- ・ ジオAIの価値として、事後対応ではなく、事故・災害・社会課題が顕在化する前に兆候を捉え、先手を打つ意思決定を下せるようになる。
- ・ 都市計画や防災など、ステークホルダーが多く、高度かつ迅速な意思決定や合意形成が求められる分野において、ジオAIの価値が特に発揮される可能性が高い。
- ・ 人間の地理空間的・時系列的認識能力を拡張し、意思決定の成功確率、規模、速度を飛躍的に高めることが、ジオAIの目指す姿の一つと考えられる。

## 論点2. AIモデルの構築

### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- 「ジオAI」の実装に必要な基盤モデルとしてどんなものが考えられるか。(ex:汎用/応用)
- 「ジオAI」の基盤モデル構築に必要とされるものは何か。
- 「ジオAI」が目指すシステムの全体像としてどんな姿が想定されるか。(ex:巨大/分散) 等

### <第1回研究会で得られた主な示唆>

- ・ 言語・画像による生成AIだけでは、現実空間に紐付けた空間分析・解析は難しい現状にある。
- ・ 大規模言語モデル(LLM)が担う部分や既存のGIS基盤をいかに活用していくか検討していく必要がある。
- ・ 「空間オントロジー」を整備して、GIS と生成 AI を結びつけるというのが、日本が強みを出せる基盤的な領域である可能性がある。
- ・ 技術開発にあたっては、「信頼性」に重きを置く必要。100%のAIはないという前提に立ってガバナンスとともに設計していく必要。
- ・ モデルの評価は重要な問題であり、精度向上だけでなく、具体的なタスクを想定する中で取り組むことが重要。関係者がバラバラに取り組むのではなく、みんなでレッスンをためていくことが重要。間違えたレッスンもみんなで共有できれば、リトライのコストが大きく低減する。
- ・ 小さな運用をユースケースとして進めていくべき。真新しいユースケースというよりも、今までやっていたことがより早く、より一般化してできるところにジオAIの可能性がある。ミクスチャーオブエキスパーツのように、小さいモデルをたくさん集めて大規模化していく形を想定。

### <第2回研究会で得られた主な示唆>

- ・ ジオAIの機能や社会実装を整理するにあたり、人の関与度合いに応じた段階化(例:単純分類、意思決定支援、将来的な自律的実行)といった整理軸を設けることが有効ではないか。
- ・ 現実空間で活動するロボットやモビリティ等においては、ローカルなセンサー情報だけでなく、広域かつリアルタイムな外界情報を前提としたAIモデルが求められる。
- ・ ジオAIにおいては、空間情報に加えて、時系列データの蓄積・活用が極めて重要であり、データを継続的に収集・保存することそのものが将来のAI活用の前提条件となる。

## 論点3-1. データ整備

### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- 「地理空間情報」の特性を踏まえ、ジオAI推進にどのようなデータ整備が求められるか。
  - ・ 求められる基礎的なデータセットや品質はどのようなものか
  - ・ AIが理解しやすい形式(AI-ready)とは何か(ex:機械判読可能、オントロジーなど)
  - ・ 地理空間情報に特有のデータ性質(座標系、時系列、縮尺等)を考慮すべきか
  - ・ 不足しているデータはないか、データ規模の課題はあるか
  - ・ 教師データとしてどんなデータが必要か 等
- そもそも、各種情報のGISデータ化・標準化をどのように進めていくべきか。 等

### <第1回研究会で得られた主な示唆>

- ・ ジオAIの社会実装に向けては、質や信頼性の高いデータ資源を充実させ、学習させることが最も重要。データの信頼性、継続性、正確性を担保するため、データ層の整備が必須だが、地理空間情報の分野で取り組んできたことそのものでもある。
- ・ 教師データは公共財的な性格があり、共通基盤としてどう拡充するかが重要。「国土数値情報」のような信頼性の高い公的データをAIが理解しやすい形式にいかに整備していくか。
- ・ データの整備・提供に当たっては、AIが理解しやすい形式、メタデータの整備など、AIが使える形での提供が求められる。
- ・ AIが読めるための最低限のデータを整備するという観点で、必要なメタデータの整備を進めることが考えられる。メタデータ、教師データの整備は典型的な協調領域ではないか。
- ・ 信頼できるデータを整備・保有している測量業者には、大きな役割が期待される。

### <第2回研究会で得られた主な示唆>

- ・ 3Dデータにおける高さ方向の整合確保や、AIが生成した成果物の信頼性・妥当性をどのように評価するかといった点も重要な論点である。
- ・ 不動産分野等では、一部のデータ欠落がそのまま事業リスクにつながるため、「あると便利なデータ」ではなく、「網羅的にそろって初めて使えるデータ」という観点での整備が求められる。
- ・ 地区計画等の情報がPDFや画像などで散在している現状では、そのままではAIが扱えず、AI-Readyなデータへの転換が進んでいないという課題がある。
- ・ 「どのデータがあれば新しいことができるか」だけでなく、「どのデータがないことによって失敗するのか」を洗い出す視点が重要である。

## 論点3-2. データ連携・流通

### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- 「ジオAI」を推進するため、公的な地理空間情報の保管・流通環境はどうあるべきか。
- 「ジオAI」を推進するため、民間データの共有を進めるにはどんな仕組みがいるか。
- 「ジオAI」が公的・民間の各種データを活用していくためには、データ(ベース)間の連携・相互活用方法としてどのようなものが考えられるか。(ex:MCP、ID体系...) 等

### <第1回研究会で得られた主な示唆>

- ジオAIの推進にあたっては、データの流通基盤が中核課題となる。単にデータを公開するだけでなく、AI が使える形式で地理空間情報を流通させていく視点が重要。
- 正しい(質の高い)データの収集・連携のための基盤や、そのためのルール形成が重要となり、ジオAI社会における「G空間情報センター」の役割が重要となる。
- データ自体に加え、AIが使える形で地理空間情報を連携・流通するためには、ラベル付け、Geo-RAG、MCPの提供などが求められ、空間IDや不動産IDなどのデータインデックスの活用も期待される。
- 準協調領域として、企業の独自データ、自治体のセンシティブデータなどは持ち出さないで済む連携方式、実証事業として行政支援を受けたものは協調領域にフィードバックするといったシステムが考えられる。
- 個人情報保護法の改正でどんなことができるようになるか。

### <第2回研究会で得られた主な示唆>

- 防災分野等では、IDが付与されていない情報が複数システムに分散し、突合・連携が困難であることが大きな課題となっている。
- 空間ID、不動産ID、地区計画ID等を整備することで、分散・断片化された地理空間データを統合的に扱い、時系列分析や表記揺れの解消を可能とする基盤整備が重要である。
- ビジネス活用の観点からは、リアルタイム性や鮮度の低いデータは実利用に耐えないため、データ流通の仕組みにおいても時間軸を強く意識する必要がある。

## 論点4-1. 進め方など(実装・エコシステム)

### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- 「ジオAI」の社会実装に向けて、短期・中長期の時間軸で、産官学のプレイヤーは、どのような役割・取組(競争領域・協調領域)を果たしていくべきか。
- このほか、「ジオAI」を持続的に発展させていくために必要な点はないか。 等  
(ex:社会受容性・責任分界、マーケットデザイン、人材確保・育成、人間力の向上、AX...)

### <第1回研究会で得られた主な示唆>

- 協調領域(準協調領域)、競争領域のフレームを的確に捉え、全体としてのマネタイズ、全体としての競争相手(=世界)を意識して、エコシステムの形成につなげていく必要がある。
- 研究者、学生、企業などが魅力を感じるタスク、本質的な問題を設定し、コミュニティを形成していくことが必要。
- 技術面だけでなく、地理空間情報とAIの両方を理解できる人材育成が求められる。
- 特に民間データについては、更新・提供に要する費用に対し、どのようにビジネスとしてマネタイズし、価値を生み出すのかというエコシステムを具体的に想定することで取り組むべき課題が見えてくる。
- エコシステムの中でデータの囲い込み・民主化といった課題にも向き合うことが求められる。

### <第2回研究会で得られた主な示唆>

- 防災分野等では、IDが付与されていない情報が複数システムに分散し、突合・連携が困難であることが大きな課題となっている。
- 空間ID、不動産ID、地区計画ID等を整備することで、分散・断片化された地理空間データを統合的に扱い、時系列分析や表記揺れの解消を可能とする基盤整備が重要である。
- ビジネス活用の観点からは、リアルタイム性や鮮度の低いデータは実利用に耐えないため、データ流通の仕組みにおいても時間軸を強く意識する必要がある。

## 論点4-2. 進め方など(ガバナンス)

### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- AIガバナンス(適正性の確保等)の観点から、開発者、提供者、利用者それぞれに、ジオAI特有の配慮が必要な点はないか。
- このほか、「ジオAI」を持続的に発展させていくために必要な点はないか。 等  
(ex:社会受容性・責任分界、マーケットデザイン、人材確保・育成、人間力の向上、AX...)

### <第1回研究会で得られた主な示唆>

- 社会実装には、データや、モデル・運用において、信頼できるジオAIとしていくガバナンスが必要。信頼性担保のガバナンスとしては、ルールで担保する部分、自己規制の2層構造に加え、中間領域の設計が重要となる。この点で、業界・学会等の役割は重い。
- ジオAIの価値を発揮するためには、データの信頼性が求められ、特に災害対応など誤った判断の影響が大きい公共分野での利用ではそれが強い。
- ジオAIの推進は、技術面と制度面、そして人材育成を総合的に進める必要がある。人材面では、地理空間情報とAIの両方を理解できる人材の創出が鍵となる。
- AI一般に求められるガバナンス(ex.AI指針など)を活用できる部分も多いのではないか。

### <第2回研究会で得られた主な示唆>

- ジオAIの活用にあたっては、継続性・正確性・信頼性をどのように担保するかが重要であり、データ品質やAI成果の妥当性に関する共通的な考え方や尺度を整理する必要がある。
- AIが生成・提示する分析結果について、どこまでをAIに委ね、どこからを人が判断・責任を負うのかといった責任分界の整理が求められる。
- 個人情報や位置情報を含むデータの取り扱いについては、個人情報保護法の改正や国際的なAIガバナンスの動向も踏まえつつ、ジオAI特有の論点を整理する必要がある。
- 測量・地理空間情報分野において蓄積されてきた制度やルールを踏まえつつ、AIオリエンテッドな公共データの位置付けや運用の在り方について検討を深める必要がある。
- 社会的信頼を確保する観点から、産学官が関与する形で、ガバナンスに関する議論や合意形成を継続的に行う枠組みの必要性が指摘されている。

## 2. 本日も議論いただきたい点

---

## 〈本研究会における検討事項〉

ジオAI(地理空間情報×AI)に関する取組を推進するため、時間軸や産学官関係者の役割分担を意識しつつ、現状(Asis)と目指す姿(Tobe)を明らかにしたうえで、そのギャップ(=論点・課題)を、いかに埋めていくべき(=方向性)かを検討する。

- ① ジオAIをめぐる最近の動向
- ② ジオAIの概念整理、目指す姿
- ③ ジオAIの推進・実現に向けた「論点・課題」の整理
- ④ ジオAIの推進に必要な産官学による「取組の方向性」(協調領域、競争領域)
- ⑤ ジオAI推進にあたって配慮・考慮すべき事項

## 〈スケジュール〉

第1回研究会(2月9日) : 「論点・課題」の洗い出し

第2回研究会(3月27日) : 「論点・課題」の整理、  
産学官ヒアリング① + 「取組の方向性」の検討(論点1、論点4-1)

**第3回研究会(4月20日) : 産学官ヒアリング② + 「取組の方向性」の検討(論点2、論点3、論点4-2)、  
中間整理素案の検討**

第4回研究会(5月25日) : 中間整理の確認

以下の2点についてご議論をお願いします。

## (1) 取組の方向性の検討について

本日の産学官ヒアリング②(AIモデル、データ整備、データ連携・流通)を踏まえ、

### 【ヒアリング】

- ・ 株式会社Preferred Networks
- ・ ソフトバンク株式会社
- ・ 一般社団法人地理情報システム学会(オブ)
- ・ 坂下委員
- ・ 越塚委員

特に、論点2:ジオAIのモデル、論点3-1:データ整備、論点3-2:データ連携・流通  
論点4-2:進め方など(ガバナンス)について、ご議論をお願いします。

## (2) 中間整理素案について

不足や追加・修正がないかなど

特に、全体の構成や方向性についてご議論をお願いします。

### 論点2. AIモデルの構築

#### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- 「ジオAI」の実装に必要な基盤モデルとしてどんなものが考えられるか。(ex:汎用/応用)
- 「ジオAI」の基盤モデル構築に必要とされるものは何か。
- 「ジオAI」が目指すシステムの全体像としてどんな姿が想定されるか。(ex:巨大/分散) 等

#### <更に深めるべき論点>

- ジオAIで取り組むべきAIモデルの構築として、地理空間情報に関して共通的な要素を学習した「地理空間モデル」が求められるか。こういったデータや空間オントロジーが多様な活用に対応可能なものとして想定されるか。
- 領域に特化したモデルは、どのような領域・タスクを想定し、どのような形から進んでいくことが考えられるか。
- 短期～中長期で構築するモデルは、「地理空間モデル」か「領域特化モデル」か。その場合の産学官の役割は何か。

### 論点3-1. データ整備

#### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- 「地理空間情報」の特性を踏まえ、ジオAI推進にどのようなデータ整備が求められるか。
  - 求められる基礎的なデータセットや品質はどのようなものか
  - AIが理解しやすい形式(AI-ready)とは何か(ex:機械判読可能、オントロジーなど)
  - 地理空間情報に特有のデータ性質(座標系、時系列、縮尺等)を考慮すべきか
  - 不足しているデータはないか、データ規模の課題はあるか
  - 教師データとしてどんなデータが必要か 等
- そもそも、各種情報のGISデータ化・標準化をどのように進めていくべきか。 等

#### <更に深めるべき論点>

- データ面でのAI-Ready(AIが使える地理空間情報)のためには、データ自体に、具体的には最低限どのような要件が求められるか(データ品質・メタデータ、AIが扱いやすい形式等)。
- 教師・学習データをはじめ基礎的なデータセットとして、どのようなデータから優先的に対応すべきか。また、その際に官民に求められる役割や協調領域・競争領域とはどこか。

### 論点3-2. データ連携・流通

#### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- 「ジオAI」を推進するため、公的な地理空間情報の保管・流通環境はどうあるべきか。
- 「ジオAI」を推進するため、民間データの共有を進めるにはどんな仕組みがいるか。
- 「ジオAI」が公的・民間の各種データを活用していくためには、データ(ベース)間の連携・相互活用方法としてどのようなものが考えられるか。(ex:MCP、ID体系...) 等

#### <更に深めるべき論点>

- 連携・流通面でのAI-Ready(AIが使える形で地理空間情報の連携・流通)のためには、時間軸や役割分担を踏まえて、どのような基盤(MCP等)が必要で、具体的にはどのような優先順位で、誰がどのように、整備を進めることが考えられるか。
- ジオAIのデータ流通環境を整備する上でプラットフォーム(例:G空間情報センター)に求められる役割は何か。
- データが高すぎるという指摘について、どのような対応が考えられるか。

### 論点4-2. 進め方など(ガバナンス)

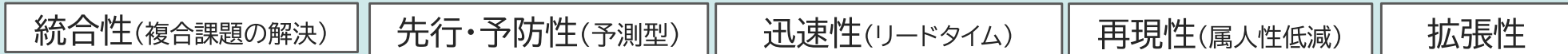
#### <第1回研究会で提示した課題・論点例>

- AIガバナンス(適正性の確保等)の観点から、開発者、提供者、利用者それぞれに、ジオAI特有の配慮が必要な点はないか。
- このほか、「ジオAI」を持続的に発展させていくために必要な点はないか。 等  
(ex:社会受容性・責任分界、マーケットデザイン、人材確保・育成、人間力の向上、AX...)

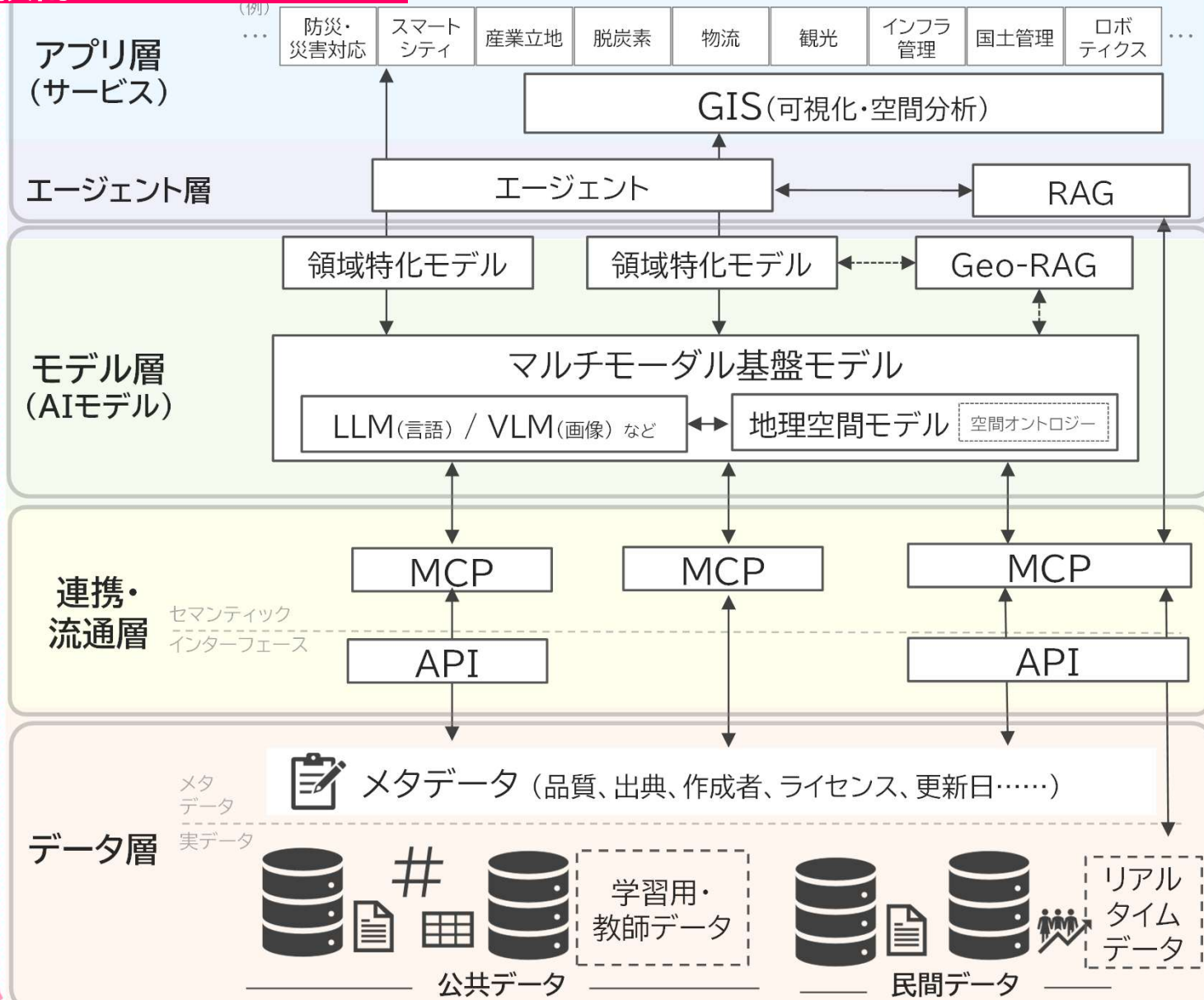
#### <更に深めるべき論点>

- 信頼できるジオAIの実現のために、データ、連携・基盤、モデル、運用・サービスのそれぞれで求められる取組は具体的に何が考えられるか。誰がその中心的なプレイヤーとなるか。
- AI一般に求められるガバナンスの問題に加え、ジオAIに特有の課題として具体的に何があるか。

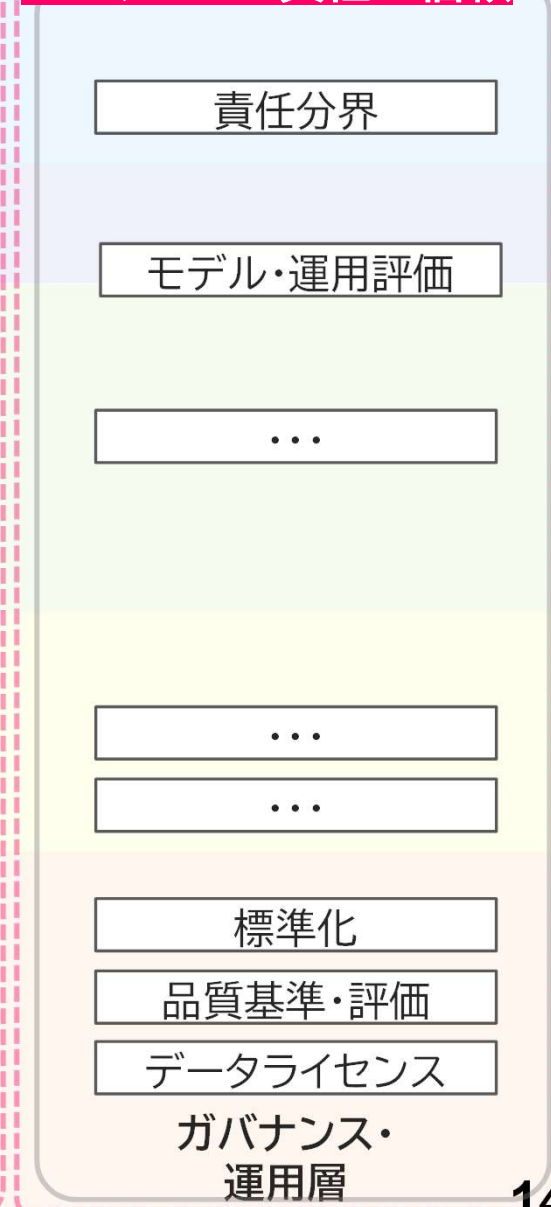
## 価値 意思決定の質的転換



## 技術 AIモデルとデータ

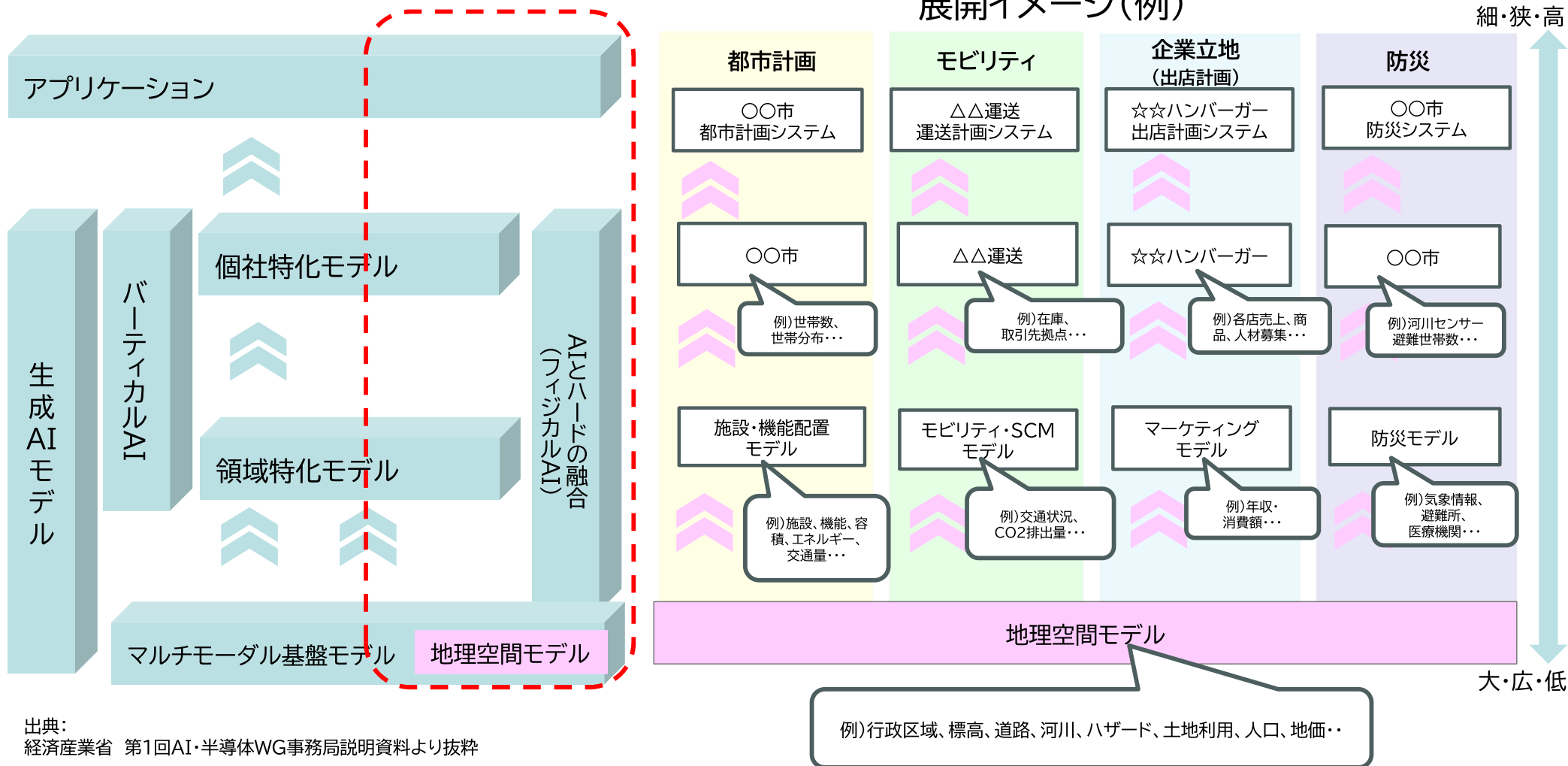


## ガバナンス 責任と信頼



	協調領域	準協調領域	競争領域
	官民連携で整備し 公共デジタル基盤を提供する	共有しつつ データ主権は守る	民間それぞれが 成果・運用で競う
アプリ層	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共にかかるアプリケーションのOSS化等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各種アプリケーション</li> </ul>
エージェント層	<ul style="list-style-type: none"> <li>国が提供するAIエージェント(地図検索・災害情報参照など)</li> <li>Geo-RAG</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共支援・実証事業の成果の一部を協調領域に還元</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各社のアプリ向けAIエージェント</li> <li>公共的なエージェント/Geo-RAGの行動設計・UXでの差別化</li> </ul>
モデル層	<ul style="list-style-type: none"> <li>マルチモーダルAI基盤(地理空間モデル)</li> <li>共通ベンチマーク・評価軸</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>領域特化モデル</li> <li>ファインチューニング</li> </ul>
連携・流通層	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI-Readyなデータ流通仕様(標準化、API、空間ID)</li> <li>データ連携コネクタ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連邦学習など分散された独自データの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルタイム連携、イベント駆動連携などの個別連携</li> </ul>
データ層	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共的な基盤データ(地図・標高・政府統計など)</li> <li>メタデータ/データ仕様</li> <li>汎用的な学習済データ/教師データ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定分野/業界ごとの学習用教師データ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社センサー、顧客接点データなど各社固有のデータ</li> <li>各社の学習用教師データ</li> </ul>
ガバナンス・運用層	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIガイドライン・プライバシー等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成・コミュニティ形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鮮度・カバレッジ・運用ノウハウでの差別化</li> <li>SLA・監査対応まで含む責任</li> </ul>

## ジオAI(地理空間情報×AI)



地理空間モデルは、「国土や国土の利用に関する基本的で汎用的な情報についての時空間的な関係性を理解するモデル」と定義する

## データの品質向上(Quality)

- 構造化され機械判読可能なデータ
  - ・ 座標が付与されたGISデータ(属性項目・ジオメトリの明示)

空間データとして利用するための品質

### ○ 空間的品質の担保

- ・ ジオメトリに不整合がない(自己交差ポリゴンがない等)
- ・ データセット内で座標系が一貫
- ・ 広域かつ地域・時点の偏りがない
- ・ 欠損値・異常値の扱いが明確

AIが意味を誤解せずに使うための品質

### ○ 意味的品質の担保

- ・ 分類・コード体系の一貫性
- ・ 表記揺れ・不整値がない

AIが学習・評価に使うための品質・信頼性

### ○ AIモデルの学習・評価に活用

- ・ 対象空間全域をカバー(網羅性:AIによるデータ補完)
- ・ 時系列データも整備(過去からリアルタイムまで)
- ・ 推論や判断のためのタグやラベル、時系列・変化の意味づけ
- ・ 過去の判断例、過去対応の学習済(正解・失敗)データ

## データの信頼性向上(Trust)

### ○ 地理空間情報としての基本的なデータ提示

- ・ 座標参照系
- ・ 品質情報(位置精度、完全性、欠測、ノイズ…)

### ○ データの真正性確保

- ・ データ作成者(責任者)、データ作成日時
- ・ バージョン管理、過去版の参照可否
- ・ 原典資料(引用)、データ作成プロセス

### ○ データの利用条件の提示

- ・ 利用許諾条件、秘匿情報の有無、再配布可否
- ・ 適用可能用途、適用不可用途

AI利用向けの拡張項目追加

### ○ AI利用を前提とした情報提示

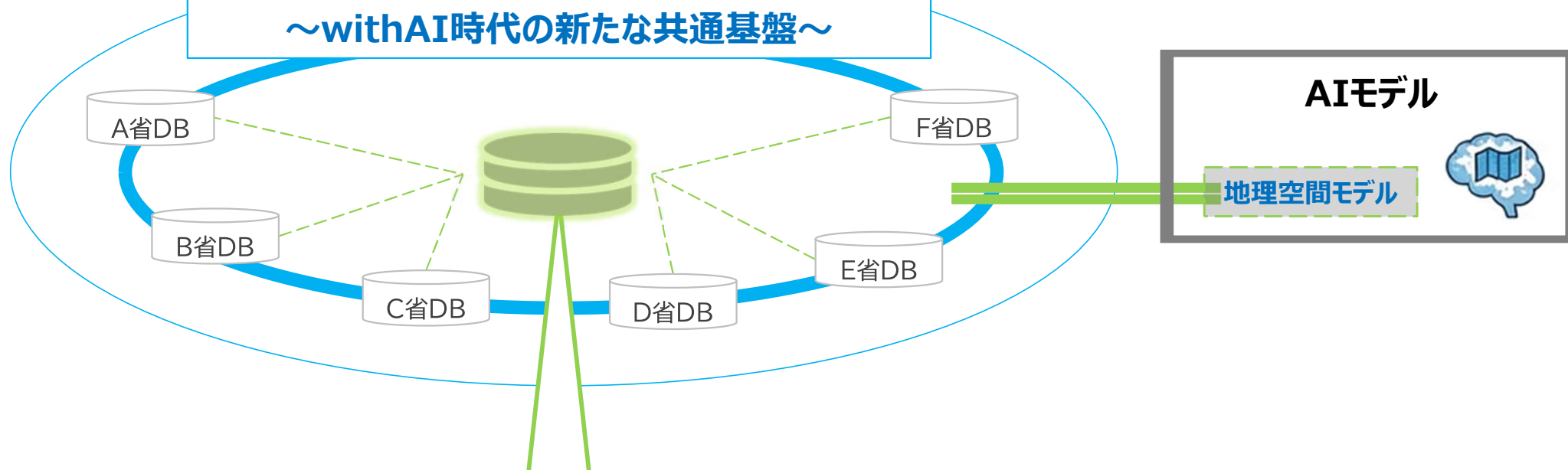
- ・ データ概要の要約
- ・ 目的ごとの網羅性の担保
- ・ 用途分野ごとの教師データ収集

地理空間情報  
オープンデータの  
整備指針・品質指針  
(ガイダンス)

AI-Readyに拡張  
データ品質基準・  
メタデータ標準化

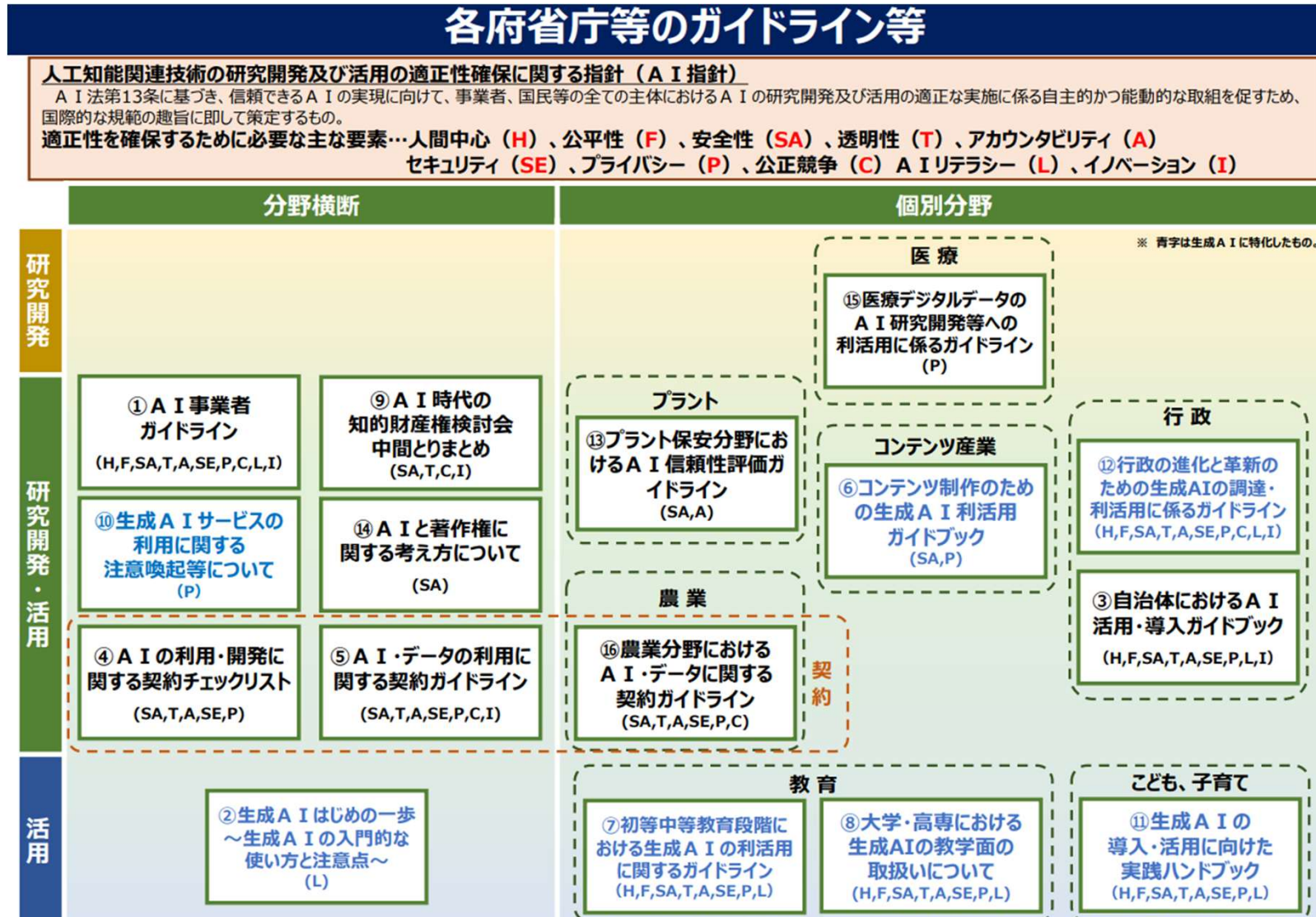
特定分野での  
AI活用試行・評価  
(領域特化モデルなど)

## G空間データスペース (仮称) の形成 ~withAI時代の新たな共通基盤~



- ① G空間情報センターのAI対応化 (公的データの整備・AI-Ready化、3次元データの整備・更新、AI探索基盤の整備等)
- ② ID体系・基盤の構築 (空間ID、不動産ID等)
- ③ 基盤地図情報等の整備・AI-Ready化 等

- AIに関するガイドラインの整備は、個別分野・分野横断レベルで進められている。今後のジオAIの推進に当たってはこれらを活用するとともに、ジオAI特有の論点があるかどうか注視が必要。



### <中間整理の位置づけ>

- 第4回研究会までの議論から、ジオAIをめぐる現状、目指す姿、課題・論点を整理し、必要な取組の方向性をとりまとめる

### <今後の想定スケジュール>

- 4月20日 :第3回研究会 中間整理(素案)の提示←本日
- 5月上旬～ :本日の議論を踏まえ、「中間整理案」として修正。各委員よりご意見をいただく
- 5月25日 :第4回研究会にて中間整理(案)の提示・議論
- 5月末(目標):中間整理を国交省HPに公表、プレスリリース

## 1. 研究会設置の背景・課題認識

論点1

### 1.1 背景

- (1) G空間プロジェクトの経緯
- (2) 地理空間情報の拡がり
- (3) AIの進展と地理空間情報分野でのAI活用(現状)

### 1.2 課題認識

### 1.3 ジオAI 研究会の設置

## 2. ジオAI(地理空間情報×AI)への期待

論点1

### 2.1 ジオAIとは

### 2.2 ジオAIへの期待(産学官ヒアリング結果)

## 3. ジオAIで目指す姿

論点1

### 3.1 ジオAIにより目指す姿

- (1) 目指す未来社会
- (2) ジオAIの価値

### 3.2 ジオAIが期待される分野例

## 4. ジオAIの全体設計像(アーキテクチャ)

論点4

### 4.1 ジオAIの全体アーキテクチャ

### 4.2 協調領域・競争領域

## 5. ジオAIの実現に向けた課題と方向性

論点2

論点3 論点4

### 5.1 ジオAIモデルの構築

- (1) 論点
- (2) 現状とあるべき姿
- (3) あるべき姿の実現に向けた取組方針と留意すべきポイント

### 5.2 地理空間基盤モデルの定義

#### (1) 地理空間基盤モデル

### 5.3 AI-Readyなデータ整備

- (1) 論点
- (2) 現状とあるべき姿
- (3) あるべき姿の実現に向けた取組方針と留意すべきポイント

### 5.4 AI-Readyなデータ連携・流通基盤

- (1) 論点
- (2) 現状とあるべき姿
- (3) あるべき姿の実現に向けた取組方針と留意すべきポイント

### 5.5 ガバナンス

- (1) 論点
- (2) 現状とあるべき姿
- (3) あるべき姿の実現に向けた取組方針と留意すべきポイント

### 5.6 人材育成

- (1) 論点
- (2) 現状とあるべき姿
- (3) あるべき姿の実現に向けた取組方針と留意すべきポイント